



「東工大多言語音声コーパスアイスランド語」＜その2＞方言的特徴を探る

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2023-09-27 キーワード (Ja): 疑問文音声データベース, 上昇調疑問文イントネーション, 北部方言の音声特徴 キーワード (En): 作成者: 三村, 竜之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/0002000044

「東工大多言語音声コーパス アイスランド語」

<その2>

方言的特徴を探る

三村 竜之

Review: Icelandic in Tokyo Institute of Technology Multilingual Speech Corpus #2: An Inquiry into Dialectal Features

MIMURA Tatsuyuki

要旨 : The author reviewed an Icelandic speech database, *PBtext Corpus*, compiled by Tokyo Institute of Technology in his previous work and pointed out that one of the speakers consistently read aloud interrogative sentences with an unusual rising intonation. From several earlier studies in Icelandic dialects, it could be inferred that this unusual intonation is one regional traits in northern Iceland. However, the question still remains unsolved since the corpus provides almost no information on the speakers. In this short report, the author attempts to find out some dialectal traits from the database and demonstrate that the speaker with the unusual rising tune is a speaker of a northern dialect.

キーワード : 疑問文音声データベース 上昇調疑問文イントネーション 北部方言の音声特徴

1 はじめに

1.1 本研究の背景と目的

国立情報学研究所より、「東工大多言語音声コーパス アイスランド語」（以下、「東工大アイスランド語」とする）（篠田・古井 2012）と呼ばれる読み上げ音声資料が提供されている。かつて筆者は、同コーパスに収められている種々の音声資料の中から、特に *PBtext Corpus* (*The Jensson Corpus/Jensson-málheildin*) と呼ばれる疑問文の読み上げ資料の紹介とその具体的な利用方法の提案を兼ねて、疑問文の文末音調（イントネーション）の考察を行うべく小論をしたためた（三村 2018b）。

筆者はそれまでの自身の論究から、少なくとも首都 Reykjavík（レイキャヴィーク）の方言（や、それに相当する、外国人が規範的な変種として学ぶアイスランド語）においては、疑問文は疑問詞の有無を問わず、文末には下降調が現れることを明らかにしたが（三村 2017, 2018a）、それに反して「東工大アイスランド語」には、非標準的とも言える上昇調が疑問文に観察されるデータ（話者 m05; 詳細は第二節を参照）が確認された（図1のピッチ

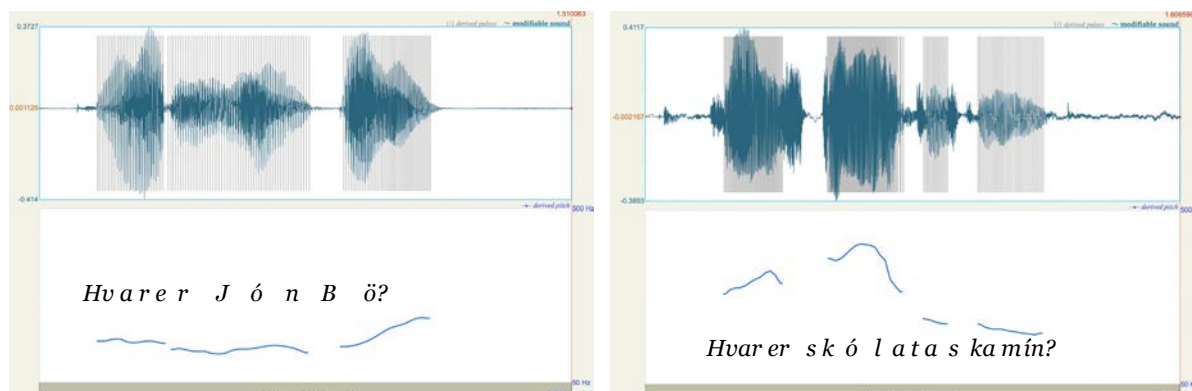


図 1: PBtext コーパスの話者（左図・上昇あり）と Reykjavík 方言の話者（右図・上昇なし）

Hvar er Jón Bö?

「Jón Bö【人名?】はどこですか?」

Hvar er skólataski mín?

「僕のランドセルはどこ?」

曲線も参照のこと¹⁾。同コーパスの録音に参加した話者に関しては年齢と性別のみが明らかとされており、従って同コーパスに関する筆者の論考（2018b）では、疑問文における上昇調の出現が何に起因するものなのか論究は保留した。しかし、その後に入手した先行研究（例: Indriði Gíslason and Höskuldur Práinsson (1993)）における記述を踏まえると、「東工大アイスランド語」に観察される疑問文末尾の上昇調が地域的（いわゆる方言的）特徴である可能性も未だ否定できないことが明らかとなった。

そこで本小論考では、まず Indriði Gíslason and Höskuldur Práinsson (1993)の指摘を踏まえ同コーパスにおける疑問文の上昇調を北部方言の特徴と仮定し、そして、同コーパスの当該話者の発話音声データを種々の方言的特徴に基づいて精査し、当該話者の方言を北部方言と裏付けることが可能か否か詳細に考察する。

1.2 「東工大アイスランド語」PBtext コーパスについて

国立情報学研究所のデータセット共同利用研究開発センターが行う事業の一つに音声資源コンソーシアム²⁾と呼ばれるものがあり、様々な音声資源・データの配布を（一部有償で）行っている。「東工大アイスランド語」は音声資源コンソーシアムが配布するコーパスの一つであり、2022年11月時点で無償で配布されている。

「東工大アイスランド語」はDVDの形式で配布されており、wav形式の音声ファイルと読み上げられた発話を記したテキストファイルからなるフォルダーや、コーパスの概要を記したテキストファイルからなっており、パソコン上で種々のソフトウェアを用いて簡単に利用・加工することが可能である。

コーパスは東京工業大学の篠田浩一・古井貞熙の両氏の手による編纂であるが、概要を記

¹⁾ ピッチ曲線の抽出を始め、本稿での音声分析には *Praat* (Boersma and Weenink 2022)を使用した。なお、ここで引用した Reykjavík 方言の話者の資料は筆者がフィールドワークを通じて採取したものである。話者はこれまでの筆者の調査でインフォーマントとして協力して下さっている方と同じく Auður Guðmundsdóttir 氏である。この場をお借りして Guðmundsdóttir 氏に心よりお礼を申し上げる。

²⁾ 詳細は下記を参照のこと: <http://research.nii.ac.jp/src/index.html>。

したテキストファイルには筆頭編纂者として Arnar Thor Jensson の名がある。Guðnason et al. (2012) によると Jensson 氏はアイスランド語の母語話者で、2008 年には東京工業大学に在籍し電算機による自動言語認識システムに関する研究も公にしている(Jensson, Iwano, and Furui (2009)³)。「東工大アイスランド語」は、Jensson 氏が先述の自動言語認識システムの研究のために構築したコーパスを基盤としていると考えられる。

「東工大アイスランド語」は News、Questions、PBtext の三つのコーパスからなり、それぞれの音声データと概要や文字情報を記したテキストファイル (readme.txt) を含む三つのフォルダーから構成されている⁴。

本稿では、後述する通り、PBtext コーパスの特定の話者のデータのみを考察の対象とする。以下に PBtext コーパスの概要を示すが、既に拙論 (2018a) にて詳述しているため、ここでは重要な点に限定して示すこととする。また、同様の理由から、News コーパスと Questins コーパスはここでは割愛し、詳細は前掲拙論 (2018b)を参照されたい。以下、拙論 (2018b: 101-102)を基に PBtext コーパスの概略を要約する：

(1) a. 話者

- i) 話者 20 名 (男性 13 名・女性 7 名)。話者ごとに wav 形式の音声データがフォルダーに分かれており、各ファイルに性別と通し番号が付与されている (例: f01, m13; f/m は性別)。
- ii) 20 名の話者は Questions と News のどちらのコーパスの読み上げにも参加していない (下記のウェブサイト上で確認可能⁵: <https://clarin.is/gogn/jensson/>)
- iii) 性別と年齢を除き、各話者に関する情報はコーパス自体のみならず、コーパスが入手可能な上記ウェブサイト上にも一切の記載がない。

b. 音声発話データ

i) 疑問文音声

全 256 項目 (話者によっては項目の漏れあり)。text1.wav といった形式で各項目の音声ファイルに通し番号が付与されている。各文の文字情報 (原文) はテキストファイル (original_text_v2.0.1.txt ならびに transcription.txt) に所収 (但し話者によっては漏れや対応にずれあり)。なお、読み上げられた疑問文の原典等に関する記載はなく全て Jensson 氏の作例と推察される。また、各文の配列順や相互の関連に関しても一切不明。

ii) intro.wav

各話者が自身の年齢等について極めて簡単に自己紹介をしたもので、読み上げ音声ではない。

³ 拙論 (2018b) では同論文の出版年を 2008 年と記載したが筆者の誤りであった；正しくは 2009 年である。

⁴ ちなみに News コーパス、Questions コーパス、PBtext コーパスはそれぞれアイスランド語で RÚV málheildin, Þór málheildin, Jensson málheildin と名付けられており、いずれも下記の Web サイトを通じて直接入手が可能である: <https://clarin.is/gogn/>。

⁵ 具体的な文言は次の通り: “Enginn málhafanna í Jensson-málheildinni tók þátt í Þór-málheildinni eða RÚV-málheildinni.”

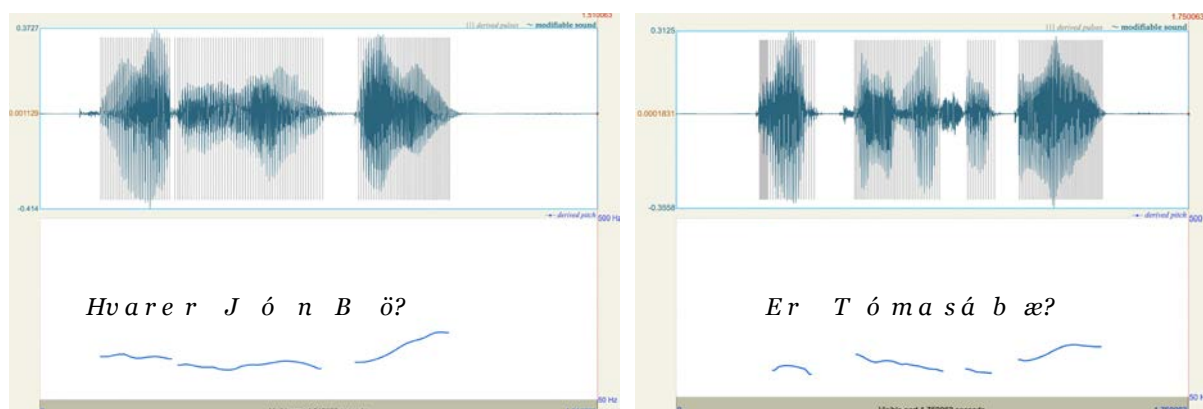


図 2: m05 による疑問詞疑問文と Yes/No 疑問文の発話

iii) アルファベット読み上げ音声

男性話者三名(m01, m03, m13)を除く話者がそれぞれアイスランド語のアルファベットを読み上げたもの; alphabet1.txt といった形式で通し番号をつけてファイル名が付けられている。

iv) 自然談話音声

各話者が読み上げではなく自然に発話した音声を文ごとに分節した音声ファイル。話者ごとに数は異なるが 10 から 20 個ほどが収められている。woz1.wav といった形式で通し番号をつけてファイル名が付けられている(woz が何を意味するかは不明); なお、本小論考にて考察する話者にはこのデータはない。

2. 考察対象ならびに方言の特定

結論を先取りすることになるが、本研究では PBtext コーパスに収録されたある特定の話者（以後、m05 と呼ぶ）の発話データのみを考察の対象とし議論を進める。本節では、なぜ考察の対象を m05 に限定するに至ったかの経緯や、m05 の発話を考察する上で指標とする方言的音声特徴について述べる。

2.1 問題の所在

アイスランド語の疑問文の文末音調は、少なくとも首都 Reykjavík の方言やそれに準ずると考えられる外国人が外国語として習得するアイスランド語の変種においては、疑問詞の有無や文構造の種類を問わず下降調である(三村 2017, 2018a)。前掲拙論(2017)を公にしたのちに「東工大アイスランド語」のデータに触れる機会を得て(三村 2018a: 42)、そこで初めて文末音調が上昇調である疑問文を筆者は耳にした。

既述の通り、PBtext コーパスに収録されている疑問文は 256 項目であるが、漏れ等の事由から、話者 20 名全員に共通して得られる疑問文の発話データは 118 項目に過ぎない。この 118 項目のうち数項目から 20 項目程度に下降調以外の音調が文末に現れる話者が 10 名確認されたが、118 項目に一貫して上昇調が確認された話者は m05 のみである(三村 2018b:

104; 前頁の図 2 も参照のこと (いずれも文末音調が上昇調である点に注目されたい))。

疑問文発話データの中に下降調と上昇調が混在する話者であれば、読み上げ資料という特性上、「読み間違い」の類として処理することも可能であったかもしれないが、m05 のように一貫して上昇調が現れるとなると話は別である。生育地等 (性別・年齢以外) の要因が関与しているのではないかと推察されるものの、こちらも既に触れたことではあるが、「東工大アイスランド語」には性別と年齢以外には各話者の情報は得ることができず、結果として、同コーパスを扱った拙論 (2018b) では、m05 の発話に観察される一貫した上昇調の詳細については今後の課題として議論を保留せざるを得なかった。

アイスランド語は、国土の規模に基づく安易な推察ゆえか、方言差が小さいと説く向きも少なくはない (例: Kuhn 1935: 24)。しかしながら、中央に氷河を配し周縁にのみ居住が可能であるアイスランドの地理的な状況を踏まえれば、アイスランド語の方言差が、例えば南北に細長く広がりかつ山勝ちな国土で使用される日本語諸方言のそれとは比肩しうるものではないとはしても、決して小さくはないことは自明であり、現に Björn Guðfinnsson (1964, 1981) や Kristensen (1924)、Hreinn Benediktsson (1961-62) 等、アイスランド語の方言的差異を扱った論究は少なくはない。しかしながら、方言的音声特徴の研究の進んだ日本語でさえ、管見に及ぶ限りでは、木部・久木見 (1993) や前川 (1997) 等、個別方言のイントネーションを対象とした論究は多数存在するものの、イントネーションの方言差をまとめた形で扱った研究は木部 (2008) や木部ほか (2009) でようやく端緒についたと言ってよい。ましてやアイスランド語は言わずもがなで、未だイントネーションの方言差に関する論究は皆無に等しいのが現状である。m05 の発話に見られるような疑問文文末の上昇調が方言的特徴であるか否かの判断も困難であるのは、致し方ないことであると言わざるを得ない。

2.2 話者 m05 の方言は北部(Norðurland)方言か？

前述の通り、アイスランド語の方言差を扱った論究においてもイントネーションは扱われることがなく、また、アイスランド語の音声学と音韻論を多岐に渡り扱った Kristján Árnason (2011) に至ってもイントネーションの方言差に関しては言及はない。このような事情に鑑みて、筆者が拙論 (2018a) を公にしたのちに偶然手にする機会を得た Indriði Gíslason and Höskuldur Þráinsson (1993) は、著しく断片的であるとは言え、文末音調の型と地域方言との関係について触れている点で極めて稀有と言ってよい。Indriði Gíslason and Höskuldur Þráinsson (1993: 51) は下記のように述べて、疑問文末尾の上昇調が少なくとも北部方言では一般的であることを示唆している：

- (2) En ef hljófallið í (29)1 【筆者注: *Hvað ertu að gera?!* 「(一体) 何をしているの?!」の末尾における上昇調】 er mildað dálítið getur hún gengið sem venjuleg spurning, a.m.k. á Norðurlandi Hljómfall í máli manna virðist vera nokkuð mismunandi eftir landshlutum en sá munur hefur lítið verið rannsakaður. Munurinn kemur t.d. fram í því að hljómfallið í (31) 【筆者注: *Hvað ertu að gera?* 「あなたは何をしているのですか?」の末尾における上昇調】 er tæpast eðlilegt spurnarhljómfall á Suðurlandi.

Þess vegna eru Sunnlendingar líklegri en Norðlendingar til þess að túlka (31) sem hryssingslega aðfinnslu.

【筆者訳】

「(29)1 の「(一体) 何をしているの?!」という疑問文の抑揚や口調【筆者補足: 文末音調は上昇調】を若干柔らかくすれば、少なくとも北部ではごく普通の質問として通用する。【中略】人間の話す言葉の抑揚は国内の場所・地域ごとにかなり異なっているものの、ごく僅かしか研究はなされていない。例えば、(31)の「あなたは何をしているのですか?」【筆者補足: 文末音調は上昇調】における抑揚は、南部では自然な質問ではまずあり得ない。そのため、北部方言の話者に比べて南部方言の話者には、(31)の抑揚がぶっきらぼうに咎められているように感じる。」

上記の Indriði Gíslason and Höskuldur Þráinsson (1993)の指摘は、確かに至極断片的なものではあるものの、この指摘をもってしてアイスランド語の疑問文の文末音調の型に方言差があり得るという事実、さらには上昇調が少なくとも北部方言の特徴であるという事実を導き出すことは十分に可能ではなからうか。

以上の考察から筆者は、PBtext コーパスの話者 20 名に共通する 118 項目という限られた範囲ではあるものの一貫して疑問文の末尾に上昇調の現れる m05 を、北部方言の話者と仮定したい。そして、分節音のレベルで北部方言であることを裏づける諸特徴が m05 の発話音声データに観察されないか探っていきたい。次節では、m05 の発話データが北部方言話者のものであることを裏付ける指標となる方言的特徴の選定について述べる。

2.3 指標とする方言的音声特徴

m05 の発話データから探る方言的特徴について述べる前に、まず、何をもって「北部方言」とするかについて触れておく必要がある。というのも、一般的にアイスランド語方言研究の分野で指す「北部 (Norðurland)」は、いわゆる地理的な意味でのアイスランドの北部とは完全には一致せず、また行政区画上、「北部」とおそらく呼ぶべき地域とも完全には一致しないことがあるため、いささか慎重を期す必要がある。

まず、単純にアイスランドの国土の北側という意味合いで考えると、北西部に位置する行政区画 Vestfirðir (の一部) も含みうるが、独自の方言的特徴 (例: *banki* 「銀行」や *lengur* 「長い」、*hönk* 「(紐などの) 輪」等における *nk* や *ng* に先行する母音が二重母音ではなく単母音で現れる (Björn Guðfinnsson (1981: 39)) を有するが故に、Vestfirðir は「北部方言」とはみなさない (cf. Ásdís Arnalds and Sólveig Einarsdóttir 2010: 152-153; なお次頁の図 3 の地図も参照)。また、行政区画上、Norðurland と名前を冠した北部の 2 区画 Norðurland vestra (北西地区) と Norðurland eystra (北東地区) は確かに「北部」ではあるものの、Norðurland に特徴的な言語現象を扱った書籍や論文ではしばしばアイスランド北東部の区画 Austurland の一部に見られる言語特徴も含む (例: 2.3.1 節にて後述する長母音に後続する語中の無声閉鎖音の気音の有無)。以上から本稿では、便宜的かつ暫定的にはあるが、

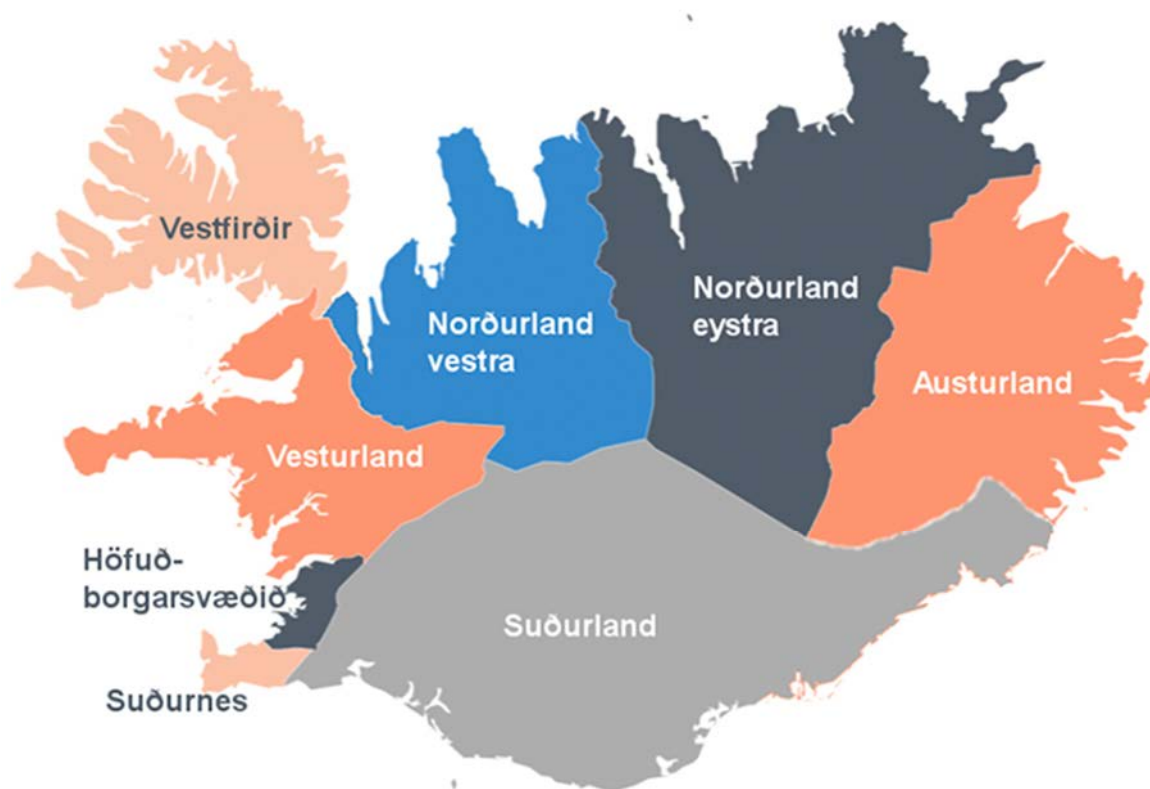


図 3: アイスランドの行政区分

Norðurland vestra、Norðurland eystra、Austurland の三つの行政区画を「北部」として扱うこととする。

さて、上記のとおり「北部」という地域を定めた上で、本稿では Ásdis Arnalds and Sólveig Einarisdóttir (2010)や Brynja Þorgeirsdóttir and Bragi Valdimar Skúlason (2014)、Kristensen (1924)、Hreinn Benediktsson (1961-62)、Indriði Gíslason and Höskuldur Þráinsson (1993)に倣い下記の方言的音声特徴に考察の対象を絞り、m05 の発話データを検証する：i) 長母音に後続する有気無声閉鎖音、ii) 共鳴音(sonorant)+有気無声閉鎖音の連結、iii) 子音連結 *nɡl* における軟口蓋閉鎖音、iv) 子音連結 *bð* と *gð* における閉鎖音。以下、それぞれの現象について概略を示す。

2.3.1 長母音に後続する有気無声閉鎖音

首都 Reykjavík の方言やそれに準ずる外国人が外国語としてアイスランド語を学ぶ上で規範とすべき発音（例えば Ari Páll Kristinsson 1988）を本稿では便宜的かつ暫定的に「標準発音」と呼ぶこととする。例えば *api*「猿」や *hata*「嫌悪する」、*gata*「通り」等における長母音に後続する語中ないし語末の閉鎖音 *p・t・k* は、「標準発音」では無声無気音であるが、「北部方言」では無声有気音である。

2.3.2 共鳴音(sonorant)+有気無声閉鎖音の連結

「標準方言」では、例えば *stelpa*「少女」や *skemmta*「楽しむ」、*banki*「銀行」等にお

ける *lp・mt・nk* 等の共鳴音⁶＋閉鎖音の連結が「無声共鳴音＋無声無気閉鎖音」となる一方、「北部方言」では「有声共鳴音＋無声有気閉鎖音」となる。

2.3.3 子音連結 *nɡl* における軟口蓋閉鎖音

「標準方言」では、例えば *englar* 「天使（複数形）」や *hringla* 「ガラガラと音が鳴る」等における子音連結 *nɡl* は「軟口蓋鼻音＋歯茎側面音」として発音されるが、「北部方言」では中間に無声閉鎖音を含む「軟口蓋鼻音＋無声無気閉鎖音＋歯茎側面音」となる。

2.3.4 子音連結 *bð* と *gð* における閉鎖音

「標準方言」では、例えば *hafði* 「持つ（過去形）」や *sagði* 「言う（過去形）」等の子音連結 *fð* と *gð* における *f* と *g* はいずれも摩擦音である（「有声唇歯摩擦音」と「有声軟口蓋摩擦音」）であるが、「北部方言」ではいずれも無声無気閉鎖音で現れる（「無声無気両唇閉鎖音」と「無声無気軟口蓋閉鎖音」）。

2.4. データ

上記の 2.3.1 節から 2.3.4 節にて概略を示した四つの現象が m05 の発話データに存在するか否かを検証する。検証対象とする音声発話データは、疑問文読み上げ音声（ファイル名が「text 通し番号」のもの）256 項目並びにアルファベット 33 番目のファイル（文字 *z* の発音を収録）の全 257 項目である。（稿末の資料に全項目の原文を示す）。なお、拙論(2018b: 107)においても指摘したが、ファイル名に“notused”と記されたものが存在する（例: text160.wav.notused）ものの、“notused”を取り除き拡張子を wav とすれば十分使用に耐えうる音質のデータであることから、今回の検証では発話データに加えた。

(1)にて PBtext コーパスに収録されている他の音声資料についても言及したが、疑問文の読み上げ音声資料と上記のアルファベットの資料以外は、全て考察の対象外とする。理由は次の通り。まず自然談話音声（ファイル名に *woz* を含む wav ファイル）は、m05 に関しては一切収録されていないため、考察の対象から除外する。続いて *intro* と名を冠した wav ファイルであるが、単に *tuttugu og níu ára* 「29 歳」とのみ収録されており、検証対象である 4 項目も含まれないため、今回は割愛する⁷。最後にアイスランド語のアルファベット 36 文字を読み上げた資料であるが、*z* の発音を収録した *alphabet33.wav* 以外は検証対象となる項目を含まないため、全て考察の対象外とした。

なお、(1a)にて既に言及したが、本稿の考察対象である話者 m05 は、「東工大アイスランド語」に収録されている PBtext 以外のコーパスには関与していない。今回、検証の範囲を PBtext の音声資料にのみ限定するのはこのためである。

⁶ 歯茎ふるえ音 *r* は他の共鳴音とは振る舞いが異なる場合があるためここでは除外する（cf. 三村(2016)）。

⁷ なお、余談ではあるが、同 *intro* ファイルの音声は全体の抑揚等が著しく不自然であり、ここから推察するに、元々はもっと長い文章の発話データで、そこから断片的に切り取ったものではないだろうか。

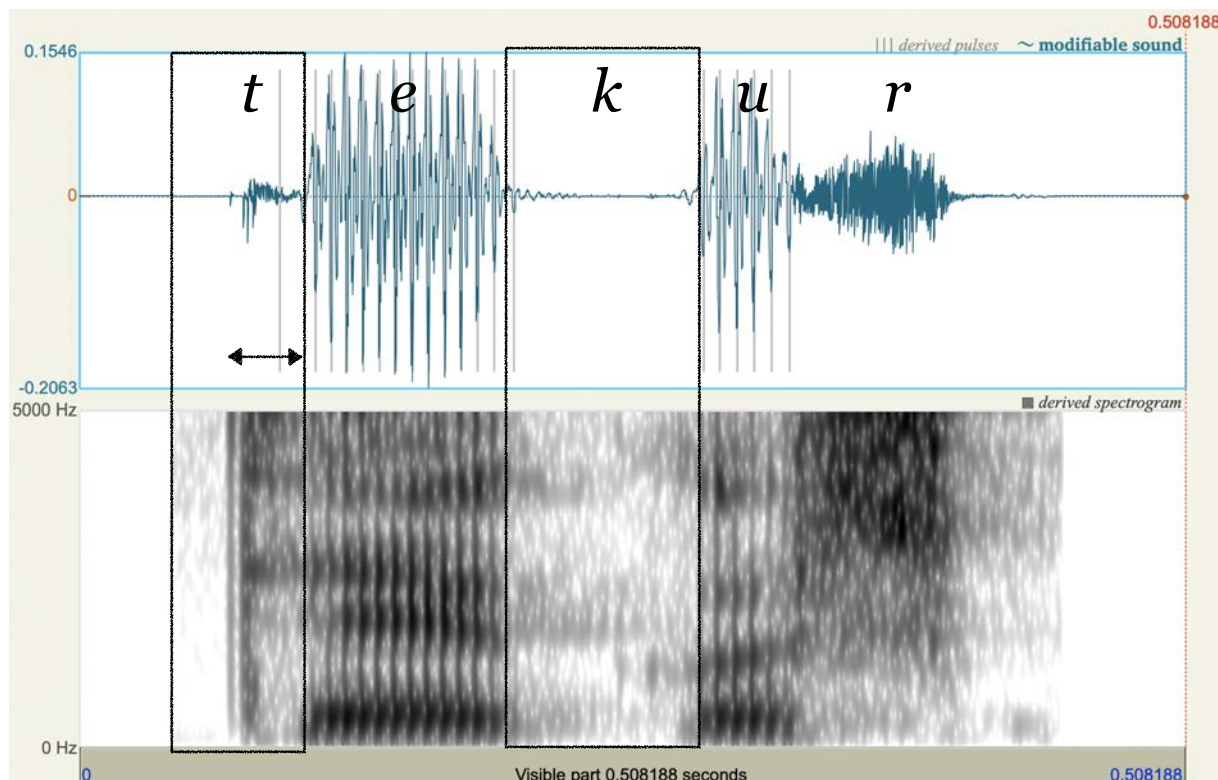


図 4: 有気音 t と無気音 k の音声波形ならびにスペクトログラム(*Te****k****ur* (text74))

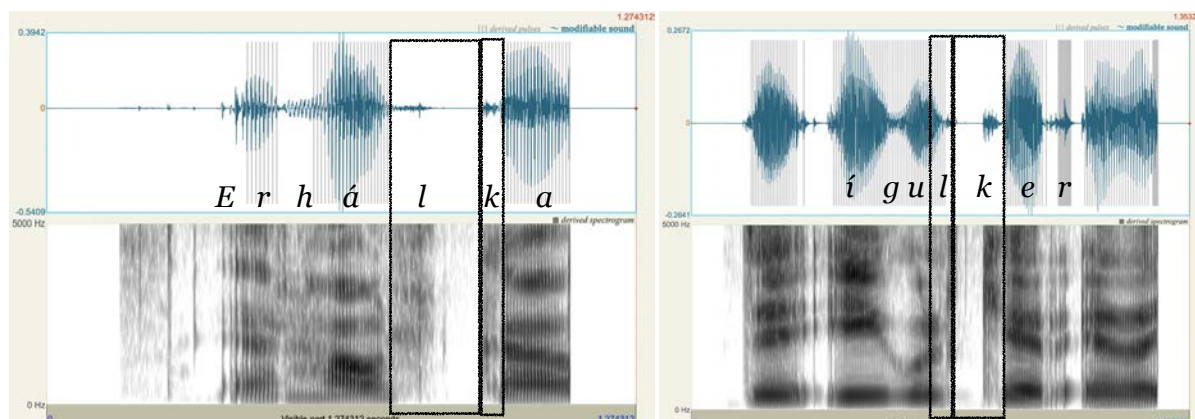
3. 結果と考察

3.1. 検証結果

3.1.1 長母音に後続する有気無声閉鎖音

検証対象とした 257 例のうち、当該現象の検証対象としては下記の 60 例が該当した（一つの項目に複数の該当事例が確認される場合あり）。なお、該当例の数が多く紙幅の都合から、当該現象の該当する箇所(太字)を含む語のみを示す：

- (3) *Reykjaví**k*** (text3); *hitinn* (text4); *ro**k*** (text12); *Getur* (text19); *Reykjaví**k*** (text24); *mikill*, *Akureyri* (text25); *lítur*, *út*, *Reykjaví**k*** (text34); *betra*, *Akureyri* (text36); *Geturðu*, *lí**k**amans* (text41); *Keflavíkurveginum* (text43); *hitastigið* (text44); *útlit* (text45); *Akureyrar* (text46); *sjávarhiti* (text47); *þo**k**a* (text50); *ví**k*** (text71); *mjú**k**a* (text73); *Te**k**ur* (text74); *pú**k**inn* (text76); *kö**k**ur* (text77); *Péturssonar* (text78); *Sighvatur* (text79); *ba**k**eldagerðar* (text86); *grípaauðugur* (text91); *knattðrepunnar* (text98); *hestaatið* (text101); *spítala* (text108); *safnrita* (text117); *Grípur* (text120); *Lét*, *svip?* (text123); *íhatur* (text134); *handtö**k**um* (text138); *handtö**k**um?* (text139); *Jakobsson* (text140); *dre**p**nir* (text170); *klútinn?* (text181); *áhugalítil* (text186); *klútinn* (text189); *skrítið* (text192); *út* (text195); *rapp-mí**k**ill* (text204); *rabb-mí**k**ill?* (text207); *love-mí**k**ill?* (text215); *piliút* (text223); *fataið?* (text228); *fataöruggur*, *fataúrslit?* (text229); *búhrotur* (text235); *búálit* (text236), *svo-úrslit?* (text238); *eyhrotur* (text240); *sjá-úrslit* (text250); *tau-innsþýting?* (text252); *zeta* (alphabet33)

図 5: *hálka* (text46)と *ígulker* (text131)の音声波形とスペクトログラム

該当箇所の発話音声データを筆者が聴取し主観音声学的に観察をし、また該当箇所の音声波形とスペクトログラムを目視にて精査した結果、上記の 60 例全てにおいて長母音に後続する無声閉鎖音は無気音（ないし著しく帯気性の弱い/VOT の短い音）であった。前頁の図 4 に示した *Tekur* (text74)の音声波形ならびにスペクトログラムを参照されたい。語頭の *t* は、スペクトログラム上では後続母音の直前にかすれが確認され、また音声波形にも周期の不規則な短い波が見られ（図中の矢印の箇所）、このことから有気音であることが窺える。一方、語中の *k* は語頭の *t* に見られるようなスペクトログラム上のかすれは確認されず、また語頭の *t* の場合に比して後続母音が *k* の閉鎖の開放後程なくして開始していることから、語中の *k* は無気音と判断しても差し支えない程度に帯気性が弱いと推定される⁸。

3.1.2 共鳴音(sonorant)+有気無声閉鎖音の連結

検討対象とした 257 項目のうち、当該現象の検討対象としては下記の 12 例が該当した (text142 に 2 例該当; 各事例の当該箇所を太字で示す):

- (4) a. *Gætir þú sagt mér hvort það er stormur eða hálka á Keflavíkurveginum?* (text43)
- b. *Er hálka og skafrenningur á leiðinni til Akureyrar?* (text46)
- c. *En á fimmtudag?* (text53)
- d. *Viltu ekki fá gömlu buxurnar til að sauma upp úr?* (text66)
- e. *Kom Bjartmar seinn og tómhentur til læk dönsku frumkvöðlanna?* (text109)
- f. *Fæddist stúdent Steinar í Prándheimi?* (text112)
- g. *Er áætlun um alþýðlegri damp í apríl?* (text119)
- h. *Hvernig endaði fótboltaæfingin?* (text124)
- i. *Öö er þetta putti, ígulker eða íæti?* (text131)
- j. *Fer fólk í bíó samfellt á hátíðardag?* (text142)
- k. *En þakpiltur og þakpynna?* (text210)

⁸ 匿名査読者の 1 名から、議論を厳密にすべく VOT の数値のみならず、閉鎖音の開放から後続母音の開始までの間に観察される非周期音の強さ（音声波形の振幅？）や長さも考察すべきとの助言を頂いた。改訂稿にはご助言を十分に反省させることはできなかった。今後の考察事項としたい。

3.1.1 節と同様、上記の 12 例の音声データの聴取による筆者自身の主観音声学的観察と音声波形ならびにスペクトログラムの精査から、text131 の *ígulker* 一例のみ共鳴音が有声音で且つ後続する無声閉鎖音に気音が確認されたが、その他の事例では全て共鳴音は無声音で後続する無声閉鎖音に気音は確認されなかった、あるいは帯気性は著しく弱かった（前頁の図 5 に示した音声波形ならびにスペクトログラムも参照のこと；text46 の *hálka* と比較されたい）。図中右側の *ígulker* では側面音 *l* は voice bar（スペクトログラム最下部の黒い帯状の部分）が現れており有声音であることが読み取れる一方、図中左側の *hálka* では側面音 *l* の voice bar はなく、また無声摩擦音に顕著なかすれが全体的に現れており無声側面摩擦音に相当する発音となっていることを確認することができる。また、*ígulker* の破裂音 *k* は閉鎖の開放と後続母音の開始までの間にかすれがスペクトログラム上で確認され、有気音であることを窺わせる一方、*hálka* の *k* は閉鎖の開放から程なくして後続母音が開始していることを読み取ることができ、帯気性の弱さを窺い知ることができる⁹。

3.1.3 子音連結 *ngl* における軟口蓋閉鎖音

検討対象とした 257 項目には、該当例が一例も見つからなかった。

3.1.4 子音連結 *bð* と *gð* における閉鎖音

検討対象とした 257 項目中、当該現象の検討対象はわずかに下記の 5 例のみであった（各事例の該当箇所を太字で示す）：

- (5) a. *Er bláeygðum puntubótum sæhafandi?* (text85)
- b. *Er Halldóra sögð ráfa um í flokki förukellinga, á snöpum á milli bæja?* (text93)
- c. *Er uppvöxtur meybarna leyfð í jarðhúsa híbýlum?* (text100)
- d. *Hafði Auður nýrun í röð?* (text169)
- e. *Sagði hann eitthvað um félagsmál?* (text174)

3.1.1 節ならびに 3.1.2 節と同様に、各音声発話データの聴取による筆者自身の主観音声学的観察、ならびに音声波形とスペクトログラムの観察から、上記の 5 例のいずれにおいても *fð* と *gð* のそれぞれ *f* と *g* の箇所はどちらも無声無気閉鎖音（破裂音）ではなく、有声摩擦音であった（次頁の図 6 に示した *Hafði* (text169) と *Sagði* (text174) の音声波形ならびにスペクトログラムを参照）。仮に当該箇所が無声無気閉鎖音であれば、音声波形やスペクトログラムは空白となるはずであるが、から読み取れる通り、該当箇所のいずれにもかすれた模様と resonance bar が確認され、少なくとも無声閉鎖音でないことは明らかであり、有声摩擦音である可能性が高いことがうかがえる（cf. Fant (1970), Ladefoged (2000), Potter, Kopp, and Green (1947)）。

⁹ 前頁注 8 と同様、VOT の数値のみならず、当該箇所の非周期音の強さ（音声波形の振幅か？）等の情報も考慮する必要があるとの助言を匿名査読者より頂いた。改稿の際に十分に反映させることは叶わず、今後の検討事項としたい。

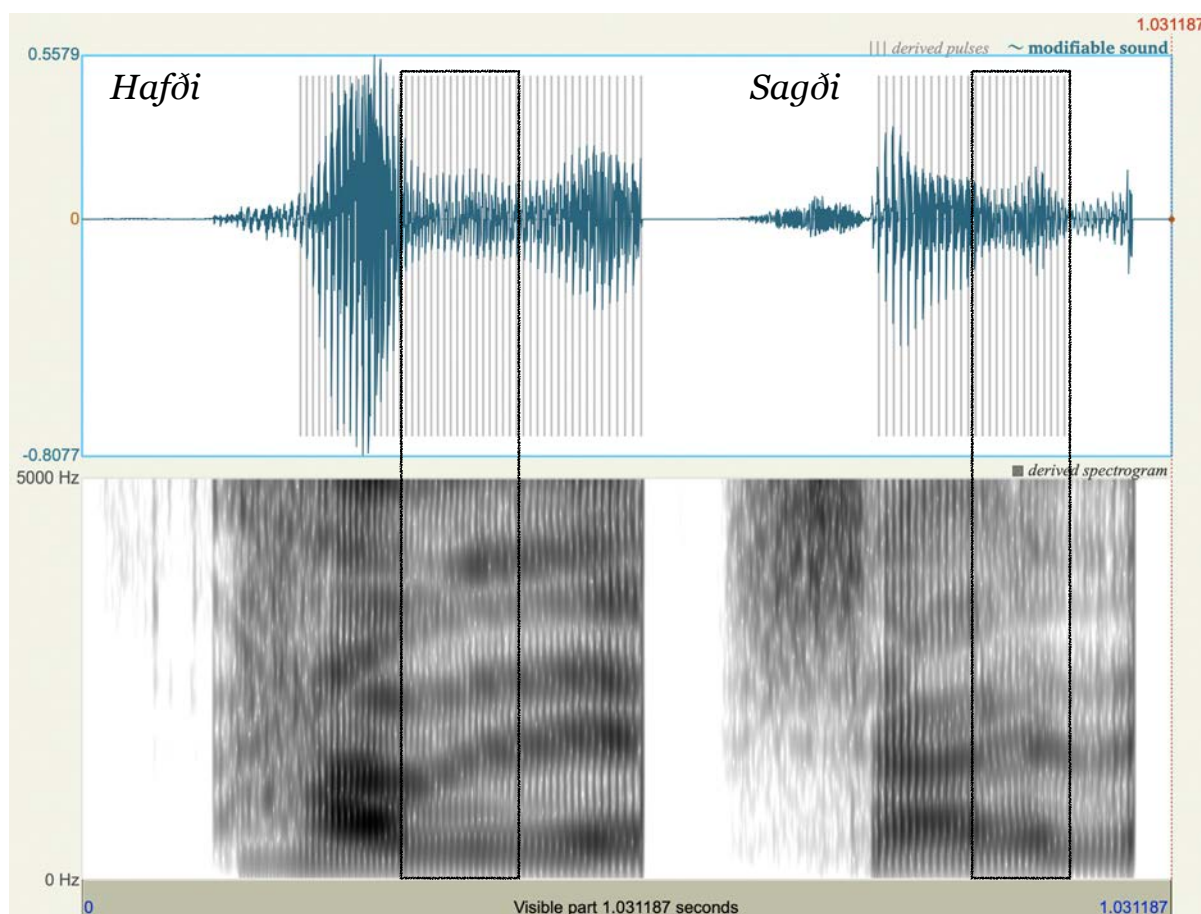


図 6: *Hafði* (text169)と *Sagði* (text174)の音声波形ならびにスペクトログラム

3.2. 考察

以上、m05 の発話音声データを「北部方言」の四つの特徴の有無という視点から検証した。3.1.2 節にて触れた通り、(有声の) 共鳴音と有気無声閉鎖音の連結という方言特徴に関してはわずかに一例のみ、該当例が確認されはしたものの、そのほかの事例は全て「標準方言」との差異は確認されなかった。また、他の3項目に関しては、「北部方言」の特徴は全く観察されなかった。以上の点を踏まえると、m05 の発話データ、少なくとも検討対象とした4項目に関する限りでは、「北部方言」のそれであるとは断定できない。しかしながら、その一方で、疑問文の文末には一貫して非標準的な上昇調が現れるという事実は未だ残されている。本節では、「北部方言」の特徴と推察されるこの上昇調が出現する一方で、なぜ検証項目として取り上げた4項目に関しては「標準的」であるのかという視点から、m05 の発話音声データの検証結果の考察を行うこととする。

3.2.1 なぜイントネーションは「北部方言」か？

筆者は検証結果を通じて、m05 の発話では、分節音のレベルでは「北部方言」の特徴が現れない一方、イントネーションのレベルでは「北部方言」の特徴である(と推察される)上昇調が現れている、と仮定した。このような、同一話者における方言的特徴と標準語の特徴

の共存はどう解釈すれば良いのだろうか。あくまで一般的な傾向性に過ぎないが、幼児の言語獲得の過程に着目すると、分節音に比べてリズムやアクセント、イントネーション等の韻律的特徴（超分節的特徴、プロソディ）の方が早い段階で獲得されるという。また、こちらも一般的な傾向性に過ぎない点は注意を要するが、失語症等で言語能力を失う場合は、言語獲得の過程の逆を辿るという（cf. Jakobson 1941）。この傾向性に従えば、例えば、標準語の影響下で話者の方言的音声特徴が失われる際、分節音に係わる特徴は標準語化されやすい一方、韻律的特徴は標準語化されにくい、と仮定することができる。この仮定に立てば、m05の発話データにおいて、本項で検証対象とした分節音にまつわる4項目に関しては「北部方言」の特徴がほぼ皆無であったのに反して、疑問文イントネーションに関して「北部方言」の特徴である（と推察される）上昇調が一貫して現れるという事実の説明がつく。

3.2.2 話者の出生年代と標準語化

前節では、韻律的特徴よりも分節音にまつわる特徴の方が標準語化の影響を受けやすいという仮定のもとで考察を行ったが、標準語化の影響の受けやすさは話者の年齢にも関係すると思われる。PBtext コーパスに収録されている readme.txt によれば m05 は 29 歳である。同テキストファイルにも、またコーパスを直接入手することが可能である Web サイト <https://clarin.is/gogn/> においても、音声発話データの収録年に関する記録は一切見当たらない。仮に 2008 年の研究発表（Jensson, Iwano, and Furui 2009）のために収録したデータであるとするならば、m05 は遅くとも 1979 年頃の生まれということになる。出生地の方言を保持するか否かは単に出生年代の問題だけではなく、両親の出生地や本人が 10 代中頃までの言語形成期をどこで過ごしたか、その後の移住歴や外住歴の有無等の詳細も含めて慎重に検討しなくてはならない。しかしながら、1979 年頃にはテレビメディア等の普及が十分に進んでいたと思われるため、そのような時代背景を考慮すれば、m05 は方言話者としては若い部類の年代に属し標準語化の影響を受けやすいと仮定することは、方言学の一般常識を踏まえると決して無理のあることではないだろう。

3.2.3 不自然な例文・言い淀みや読み間違い

既に拙論（2018b）においても指摘したが、m05 のみならず、PBtext コーパスの発話データには言い淀みや読み間違いと思しき箇所が幾つも確認される。例えば m05 の発話データでは、text210 は文中で一旦ポーズが入りあたかも文がそこで一旦終わり、後半、新しく文を読み始めたかのような印象を与える。

このような言い淀みや読み間違いは、例文の不自然さとも関係があると思われる。「東工大アイランド語」が自動音声認識システム開発のために編纂されたことに起因するのだろうか、様々な音の組み合わせを取り入れて各項目は作成されているようだが、システム開発にとってはバランスのとれたデータであっても文意の点から見ると決して自然とは言いがたいものも多い。その結果、要は、吹き込み話者が度々読みあぐねてしまっているわけだが、文意を踏まえながらなるべく原文に忠実に「正しく」読み上げようとしたがために、話者の

意識に標準語が介入してしまったとは考えられないだろうか。

4. まとめと今後の課題

以上、本稿では、「東工大アイスランド語」に収録されている PBtext コーパスの話者 1 名の発話音声資料を取り上げ、「北部方言」の四つの特徴の有無の観点からこの話者の方言の特定を試みた。残念ながら、既に前節における考察にて述べた通り、この話者の方言が「北部方言」か否かを完全に特定するには至らず、結果として、筆者にとって懸案であったこの話者の疑問文における上昇調の出現の理由については未だ十分な結論を導くには至っていない。

今後は、今回対象とした 4 項目以外にも幅広く様々な方言的音声特徴を検証項目として取り上げる¹⁰とともに、考察対象とする話者の数も増やすことで、PBtext コーパスから方言的特徴の抽出が可能か否か、引き続き検証を進めていきたい。

謝辞

本稿にて引用した筆者のデータは、全て、筆者がフィールドワークを通じて採取した一次資料である。フィールドワークの実施に当たっては日本学術振興会科学研究助成金による資金援助を受けている（課題番号 15K16729）。また、本稿の改訂に際して、2 名の匿名査読者から貴重なコメントを頂いた。この場をお借りして査読者の方々にお礼を申し上げる。

参考文献

- 【著者がアイスランド人であるアイスランド語の論文・研究書に関しては慣例に倣い、著者名を「ファーストネーム・(ミドルネーム・) ラストネーム」の順に配する】
- Ari Páll Kristinsson (1988). *The Pronunciation of Modern Icelandic: A Brief Course for Foreign Students*. Third Edition. Reykjavík: Málvísindastofnun Háskóla Íslands.
- Ásdis Arnalds and Sólveig Einarsdóttir (2010). *Tungutak Hljóðfræði og hljóðkerfisfræði handa framhaldsskólum*. Reykjavík: JPV Útgáfa.
- Björn Guðfinnsson (1964). *Breytingar á framburði og stafsetningu (Smárit Kennaraháskóla Íslands og Iðunnar 7)*. Reykjavík: Iðunn
- Björn Guðfinnsson (1981). *Um íslenskan framburð: Mállyzkur II (Studia Islandica Íslensk Fræði 23)*. Reykjavík: Heimspekidelic Háskóla Íslands og Bókaútgáfa Menningarsjóðs.
- Boersma, Paul and Weenink, David (2022). *Praat: doing phonetics by computer* (version 6.2.20). <http://www.fon.hum.uva.nl/praat/> (2022 年 9 月 25 日アクセス).
- Brynja Þorgeirsdóttir and Bragi Valdimar Skúlason (2014). *Orðbragð*. Reykjavík: Forlagið.
- Fant, Gunnar (1970). “Analysis and synthesis of speech processes.” Ed., Bertil Malmberg. *Manual of*

¹⁰ PBtext コーパスが疑問文の読み上げデータを中心に構成されていることは既に本文中で述べたが、この特性を活かし、疑問詞の発音を検証項目に取り上げることは今後採用すべき改善点の筆頭である。というのも、「北部方言」の特徴ではないが、疑問詞 *hvor* 「どこに」や *hvað* 「何が/は」等の *hv-*（アイスランドの疑問詞は全て *hv-* で始まる）が摩擦音ではなく無声軟口蓋閉鎖音で発音されることがある。

- Phonetics*. Second Edition. Amsterdam/London: North-Holland Publishing, pp. 173-277.
- Guðnason, Jón, Oddur Kjartansson, Jökull Jóhannsson, Elín Carstensdóttir, Hannes Högni Vilhjálmsen, Hrafn Loftsson, Sigrún Helgadóttir, Kristín M. Jóhannsdóttir, and Eiríkur Rögnvaldsson (2012). “Almannarómur: An open Icelandic speech corpus.” The 3rd International Workshop on Spoken Language Technologies for Under-Resourced Languages.
- Hreinn Benediktsson (1961-62). “Icelandic dialectology: Methods and results.” *Lingua Islandica Íslensk tunga* 3, pp. 72-113.
- Indriði Gíslason and Höskuldur Þráinsson (1993). *Handbók um íslenskan framburð*. Reykjavík (?): Rannsóknarstofnun Kennaraháskóla Íslands.
- Jakobson, Roman (1941). *Kindersprache, Aphasie und allgemeine Lautgesetze*. Uppsala: Almqvist & Wiksell.
- Jensson, Arnar Thor, Iwano, Koji, and Furui, Sadaoki (2009). “Language Model Adaptation Using Machine-Translated Text for Resource-Deficient Languages.” *EURASIP Journal on Audio, Speech, and Music Proceeding 2008*.
- 木部暢子、久木見大介 (1993). 「鹿児島市方言の質問のイントネーションについて」. 『鹿児島大学法文学部紀要 人文科学論集』 38, pp. 19-34.
- 木部暢子 (2008). 「方言イントネーションの記述について」. 山口幸洋博士の古希をお祝いする会編. 『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』. 富山: 桂書房, pp. 443-459.
- 木部暢子ほか (2009). 『西日本 声の言語地図 諸方言イントネーション・データ集』. 平成 20 年度科学研究費補助金報告書. 鹿児島大学法文学部人文学科木部研究室.
- Kristensen, Marius (1924). “Oplysninger om islandske dialektforskelle.” *Festskrift tillägnad Hugo Pipping på hans sextioårsdag den 5 november 1924*. Helsingfors: Svenska Litteratursällskapet i Finland, pp. 295-302.
- Kristján Árnason (2011). *The phonology of Icelandic and Faroese*. Oxford: Oxford University Press.
- Kuhn, Hans (1935). “Die sprachliche Einheit Islands.” *Zeitschrift für Mundartforschung* XI, pp. 21-39.
- Ladefoged, Peter (2000). *A Course in Phonetics*. Fourth Edition. Fort Worth: Harcourt College Publishers.
- 前川喜久雄 (1997). 「アクセントとイントネーション -アクセントのない地域-」. 杉藤美代子監修、佐藤亮一、真田信治、加藤正信、板橋秀一編. 『諸方言のアクセントとイントネーション』. 東京: 三省堂, pp. 97-122.
- 三村竜之 (2016). 「アイスランド語における無声歯茎ふるえ音の音韻論的位置づけ」. 『室蘭工業大学紀要』 65, pp.59-66.
- 三村竜之 (2017). 「アイスランド語における疑問文のイントネーション」. 日本言語学会第 154 回大会 (2017 年 6 月 24 日, 首都大学東京南大沢キャンパス).
- 三村竜之 (2018a). 「アイスランド語疑問文イントネーションの諸相」. 『室蘭工業大学紀要』 67, pp. 33-43.
- 三村竜之 (2018b). 「「東工大多言語音声コーパス アイスランド語」 <その 1> PBtext コーパスについて」. 『北海道言語文化研究』 16, pp. 99-112.

Potter, R. K., Kopp, G. A., and Green, H. C.(1947). *Visible Speech*. New York: Van Nostrand.

篠田浩一、古井貞熙 (2012).『東工大多言語音声コーパス アイスランド語 (TITML-ISL)』【CD-ROM】. 東京: 国立情報学研究所音声資源コンソーシアム.

付録: m05 発話音声資料

text1	Hvernig er útlitið á laugardaginn í kring um Hengilinn?
text2	Verður sól við Mývatn?
text3	Mun hann rigna á morgun í Reykjavík?
text4	En hvernig verður hitinn?
text5	Hvernig er spáin fyrir helgina?
text6	En spáin fyrir Austurland?
text7	Hvernig er spáin næsta mánudag?
text8	Halló, hvernig er veðrið?
text9	Í hvaða landshluta er veðrið best yfir helgina?
text10	En hvernig er útlitið fyrir verslunarmannahelgina?
text11	Okei en verður hlýtt?
text12	En verður rok í Eyjum?
text13	En í Þórsmörk?
text14	En ekki á morgun heldur hinn?
text15	Er rigning í kvöld?
text16	Hvenær byrjar að rigna?
text17	Er sól á morgun?
text18	Er veðrið gott?
text19	Getur þú sagt mér hvað verður heitt á morgun?
text20	Er skýjað um morguninn?
text21	Er grillveður núna fyrir Norðan?
text22	Viðrar vel til loftárása á morgun?
text23	Úr hverju er skýjahæðin mæld?
text24	Hvert er skyggnið í Reykjavík núna?
text25	Hversu mikill vindur er á Akureyri?
text26	Hvernig verður veðrið í miðbænum í Grafavogi?
text27	Hvernig er spáin fyrir morgundaginn?
text28	Hver er spáin á Fimmvörðuhálsi næstu daga?
text29	Verður snjór í Hlíðarfjalli?
text30	Verður rigning sautjanda júní?
text31	Okei takk fyrir?
text32	En verður rigning í hádeginu í Langá?
text33	Verður frost í nótt?

- text34 Hvernig lítur morgundagurinn út í Reykjavík?
- text35 Hvernig er spáin fyrir Klaustur á morgun?
- text36 Verður betra veður á Akureyri?
- text37 Hvenær kemur rigning á Austurland?
- text38 Verður svipað veður næstu daga?
- text39 Verður skýjað á Snæfellsnesi?
- text40 Hvað með hálendið, til dæmis Hveravelli?
- text41 Geturðu nefnt nefnalar líkamans?
- text42 Hvað áttu mörg skópör?
- text43 Gætir þú sagt mér hvort það er stormur eða hálka á Keflavíkurveginum?
- text44 Hvert er hitastigið á Reykjanesbraut?
- text45 Er útlit fyrir gott golfveður á morgun?
- text46 Er hálka og skafrenningur á leiðinni til Akureyrar?
- text47 Hver er sjávarhiti í Faxaflóa?
- text48 Hver er langtímaspáin fyrir Suðurland?
- text49 Hver er snjódýptin í Bláfjöllum?
- text50 Er ísrigning og þoka við Austurland?
- text51 Er súld á Vestfjörðum?
- text52 Hefurðu einhverja spá um veðrið síðdegis á föstudag?
- text53 En á fimmtudag?
- text54 Hvað með miðvikudaginn?
- text55 En hvernig er spáin fyrir þriðjudag?
- text56 Var brúðkaupsferðin góð?
- text57 Hafið þið þekkt lengi?
- text58 Ertu fúl?
- text59 Ákváðu lögfræðingar að vélarhljóði bátsins slægi jafnvel hálfhræddum taugum við?
- text60 Afhverju bjó amma hér?
- text61 Heyrðir þú talað um draugagang?
- text62 Fannst eitthvað úr gamla bænum?
- text63 Áttu mörg pör af skóm?
- text64 Hvað eru þær að tala um?
- text65 Ætlarðu að reyna við efnin í fyrramálið?
- text66 Viltu ekki fá gömlu buxurnar til að sauma upp úr?

text67	Vinnur mamma þín lengi?
text68	Ertu ennþá með manninum?
text69	Er það mögulegt?
text70	Hvað með hjálminn?
text71	Eigum við hægt um vik?
text72	Er nöglín svört á Laufeyu?
text73	Eru komnir ungar í mjúka dúninn?
text74	Tekur skák langan tíma?
text75	Hvað er hægt að gera við drykkfelda syni?
text76	Jaá, er þúkinn hann Baddi með vandræði?
text77	Eru þetta ekki finar kökur?
text78	Ertu bróðir Ljóts Péturssonar?
text79	Var Sighvatur Kolbeinsson yfirbugaður?
text80	Bíddu, ert þú ekki raddmaður Þórsnessþings?
text81	Er heyið daglega þurrt á Sandaósi?
text82	Hringir Lambkár í sjöunda óeirðarmann?
text83	Hvert er nauðsynjaerindi siðprúða skapdeildarmannsins?
text84	Er áeggjun, auvirðing í stafnbúum?
text85	Er bláeygðum puntubótum sæhafandi?
text86	Hver eru bleyðiorð bakeldagerðar?
text87	Neei, hvers vegna baulum við á Blönduósi?
text88	Hverjir eru grjótpálar lambhaga Tunguára?
text89	Hvernig er móunum bráa skipt í skjaldþili?
text90	Heldur þú að snæugir hausar séu óauðsúttlegt fyrirbrigði?
text91	Er Leó gripaaúðugur óárann?
text92	Hvað er óorða og gætiára?
text93	Er Halldóra sögð ráfa um í flokki förukellinga, á snöpum á milli bæja?
text94	Voru ísskápar á þönum við skipbrotið?
text95	Ná spaugandi búöndum hughægra bleðla þangað á morgni dags?
text96	Var haustþing Þingbrekku ljúft?
text97	Hvar dræpi jáorðum óvart í doktorsgráðu?
text98	Var frásögnin djúpþúin sneypu vegna knattðrepunnar?
text99	Voru menn samþykkir landflæmingu ríkdóms Hálfðánnar?
text100	Er uppvöxtur meybarna leyfð í jarðhúsa hífýlum?

text101	Var hestaatið og hólmgöngurnar hæversk ánauð?
text102	Eru þau að þjófkenna mús?
text103	Er volgt brennivín óætt?
text104	Jæja, gleymdi pabbi að læra að þrjóna?
text105	Og er Einar minn, eins og pabbi hans sálaði, hálfgerður drumbur á heimili?
text106	Leyfir Gabríel öðruvísi og síungt útvarp meðfram tígulegum bókmenntum?
text107	Er kjallaraíbúðin með húsdraug og páfagauk?
text108	Er afmæli Guðmundar Dojong á spítala?
text109	Kom Bjartmar seinn og tómhentur til læk dönsku frumkvöðlanna?
text110	Búa indíánar aðskildir við vötn?
text111	Er kaffi kær drykkur við nám í gagnfræðadeild?
text112	Fæddist stúdent Steinar í Þrándheimi?
text113	Er Lars Von Trier áberandi súrrealisti?
text114	Dvaldist Hrói með Franskbrauð á laun?
text115	Inniheldur upphaf Morgunblaðsins myndlist í ágúst?
text116	Sáu Killian og Gloría Vilhelm í peysu?
text117	Andblæs tilnefnd leikhópsins augu útgefanda safnrita og dagblaða?
text118	Gerði óbilgjarna leikgerða ráðgjöfin dúgnaskít í kaupfélaginu?
text119	Er áætlun um alþýðlegri damp í apríl?
text120	Grípur Vigdís sjálfstætt í Hrafnhildi?
text121	Er Djöflaeyjan eftir chileönsku skáldkonuna Evu?
text122	Spurði Fía skjálfrödduð?
text123	Lét hann vopnið síga eftir að hafa verið tvílráður á svip?
text124	Hvernig endaði fótboltaæfingin?
text125	Eru heyannir í dagrenningu?
text126	Hvort eigum við Auddi lágfótur dageyri eða dagost?
text127	Hvað með dagdrauma?
text128	Ææ, mygglaði brauðið?
text129	Skiptu flugmennirnir eldgulu flugvélinni í eigu flugfélagsins?
text130	Er "jíbbí jei" notað á ögurstund?
text131	öo er þetta putti, ígulker eða íæti?
text132	Hvað ertu að pæla, Vúlundur? V{¥"}{o}}lundur
text133	Hvað er dagpósa, dagkæling og daghósur?
text134	En hvað er dagauga, maus og ihatur?

text135	Veistu um íörvandi og íausandi gíg?
text136	Má ég fá íís?
text137	Hvað er að vera íeyrir, úvinn og næba?
text138	Ofbýður þér við blóðþyrstum handtökum?
text139	Hvað með óeðlilegum og stálhörðum handtökum?
text140	Er Eyvindur Jakobsson ljóshærður?
text141	Hvernig er það núorðið?
text142	Fer fólk í bíó samfelld á hátíðardag?
text143	Er hneyksli að halda viðtal í partíi?
text144	Sendi Jóhann Búbba happþæga með flugpósti?
text145	Er málmröddin uppgefin?
text146	Geyjaði gúmmí súkkulaðiögnin?
text147	Er söngvarinn óöruggur?
text148	Passa peysuermarnar?
text149	Fauk aldna aurleðjan til Evrópu, Sif?
text150	Reið skjálftinn yfir þau?
text151	Er Edvin sóthaus í love?
text152	Er vaun öfund?
text153	Er til bú?
text154	Hvar er Jón Bö?
text155	Er til te?
text156	Er Tómas á bæ?
text157	Sturlastu þegar Eggdís ryksugar?
text158	Er fall fararheill?
text159	Busslast ufsinn af öllu afli?
text160	Er uggandi fluga við vegg?
text161	lii, er yddarinn egghvass?
text162	Ertu með ibbing?
text163	Hvar er dageldið?
text164	Hvað með ugghausinn?
text165	Hvað eru dagnálar?
text166	Er sígengið veggfast?
text167	Þekkirðu konuna mína?
text168	Hafa þeir þá bara ekki tönnina?

text169	Hafði Auður nýrun í röð?
text170	Meinarðu að mennirnir voru drepnir af dálitlum kulda?
text171	Hver veit leiðina heim?
text172	Hvað meinar hann með ljótu höftunum og bönnunum?
text173	Fór hann í fáránlegu úlpunni?
text174	Sagði hann eitthvað um félagsmál?
text175	Er búið í húsinu?
text176	Fá fuglapörin að borða?
text177	Kostar jógúrt mikla peninga?
text178	Fékkstu kúlu á hausinn og blóðnasir?
text179	Jánkaði hann við spilinu?
text180	Áttu tvö poppkorn og eitt epli?
text181	Ætla þessar tvær að þvo klútin?
text182	Trúir þú á álfa?
text183	Vaknar Sæunn við dauflegt hljóð?
text184	Veistu hvort þetta er einmitt svona?
text185	Leggjast kapparnir við að ydda?
text186	Hversu áhugalítill er Halla?
text187	Eirar fyrir höfum í sendingunni?
text188	Nei, er hún á vöktum?
text189	Æi, færðu veggþynnu í klútin?
text190	Komstu fyrir löngu?
text191	Sórstu eið?
text192	Dettur þér eitthvað skritið í hug?
text193	Uu, leiddu þeir kembda féhirðinn?
text194	Hvað svo?
text195	Ausa þeir sjó út í Ey?
text196	Gustar af Gauba uppi á gangbili?
text197	Er sægarður baktaumur?
text198	Hvernig hefur Gauja gangkona það?
text199	Hvað eru síf-nálar og augu-fálmar?
text200	Hvað er skiptaug, ganghola og gangnál?
text201	Hvað er gangdraumur og tvíganga?
text202	En hvað er gangposi, gangmaður og sífési?

text203	Hvað er þili-jaxl, þili-ungi og þili-bára?
text204	Hvernig er að vera rapp-mikill?
text205	En hvað er rabb-pína?
text206	Hvað er þá rabb-tunga, rabb-tunga og rabbgengjur?
text207	Hvað er rabb-fylgja, rabb-vinur og rabb-mikill?
text208	En hvað er þá rabb-nálgun eða bara rabb?
text209	Hvað er kvöldprjónn?
text210	En þakpiltur og þakþynna?
text211	En hvað er þá love-pési?
text212	En love-bára, love-taumur og love-drykkja?
text213	Hvað er love-kvæði, love-gæði og love-fíkn?
text214	En love-vísa, love-þunnur og love-saga?
text215	Hvað er þá love-hróp og love-mikill?
text216	En love-nálgun og love-leiða?
text217	Fór Geir í daggöngu?
text218	En hvað er dagjaxl, dagís og dageldi?
text219	En þá dagöldur, dagúði og dagæra?
text220	Hvað með dagála og dagauglýsingar?
text221	Hvernig er að vera nýútskrifaður með tannpínu?
text222	Hvað er þilis?
text223	En hvað er þiliút og þilieyri?
text224	En þiliæra og þiliausa?
text225	Hvað er te-jaxl?
text226	En te-ísetning, te-elgur og te-útsláttur?
text227	En hvað með te-æði, te-ást og te-ausa?
text228	Hvað er fataiðn?
text229	En fataöruggur og fataúrslit?
text230	Hver er gráðu-Ingvi?
text231	En hvað er gráðu-ísetning og gráðu-jaxl?
text232	En gráðu-asni, gráðu-örn og gráðu-úrslit?
text233	Hvað er gráðu-eyja, gráðu-æði og gráðu-auðn?
text234	Hvað er bú-jaxl?
text235	En búhrotur, búísetning og bú-úr?
text236	Hvað með búæði, búálit og búauðn?

text237	En hverjir eru búendur borga í búeyjum?
text238	Hvað er svo-ís og svo-úrslit?
text239	En hvað er ey-gjöf?
text240	Hvað er þá ey-hrotur og ey-ísetning?
text241	En ey-elgur og ey-örn?
text242	Hvað með ey-úr, ey-ost og ey-eyri?
text243	En ey-æxli, ey-ára og ey-ausa?
text244	En hvað er bæ-ís?
text245	En bæ-elgur og bæ-asni?
text246	Hvað með bæ-örn, bæ-úr og bæ-ostur?
text247	En bæ-eyrir, bæ-ás og bæ-ausa?
text248	Hvað er þá sjá-jaxl?
text249	En sjá-ísetning og sjá-öxull?
text250	Hvað með sjá-úrslit, sjá-ás og sjá-ausa?
text251	Hvað er þá tau-hestur?
text252	En tau-ísetning og tau-innsþýting?
text253	En tau-elgur, tau-asni og tau-ugla?
text254	Hvað með tau-örn og tau-úr?
text255	En tau-orð og tau-eyja?
text256	En tau-æði, tau-ást og tau-augu?
alphabet33	zeta

執筆者紹介

氏名：三村竜之（みむら・たつゆき）

所属：室蘭工業大学大学院工学研究科ひと文化系領域

Email：m76tatsu@gmail.com